

「生徒目線の授業づくり」における3つの視点

視点1 学習の見通し

■生徒の姿■

- 1 学習に取り組む前に、単元や本時の目標（何ができるようになるか）、学習の進め方（いつまでに、どのように、何をするか等）を意識している。
- 2 課題解決に向けて、既習事項（用いるもの）や、考え方（用い方）を確認し、解決方法や結果を予想している。

【考え方】

- 単元や各授業の導入段階で、生徒に学習の「見通し」をもたせることが大切です。
- 生徒にとって見通しのない授業を受けることは、出口のないトンネルを歩かされるようなものです。
- 「本時からしばらく『羅生門』を読んでいます。」ということではなく、『羅生門』という教材を使ってどのような資質・能力を身に付ける計画なのかを生徒と共有しましょう。

視点2 学習課題（柱となる発問）を解決するための学習活動

■生徒の姿■

- 1 分からないところは自分で調べたり、友達や先生に質問したりして、見通しをもって主体的に課題解決に取り組んでいる。
- 2 自分の考えを、友達の考えと比べながら見直し、よりよい考えに修正しながら、理由や根拠が分かるように表現している。

【考え方】

- 学習指導要領において、「当該教科・科目における理解をより深めることを目的とし、教科の内容項目（指導事項）に応じた課題に沿って探究的な活動を取り入れること」の必要性が示されています。
- 探究的な学びの質を担保するためには、「学習課題（柱となる発問）」を適切に設定することが肝要です。
- 学習課題を決める際には、生徒の反応を予測して文言を精査しましょう。問い方によって生徒の答え方は変わります。学習課題の解決に取り組む生徒の姿を想像し、言葉にこだわって学習課題を設定しましょう。

視点3 学習の振り返り

■生徒の姿■

- 1 単元や題材など内容や時間のまとめりごとに、できるようになったことやできなかったことなど、課題解決の過程や成果を自分の言葉で表現している。
- 2 評価問題等を通じて、身に付けたことを振り返り、課題解決の達成感や学習内容の有用感を感じながら、次時の学習や今後の生活に結び付けている。
- 3 自身の学ぶ態度（粘り強さ、自己調整力等）の変容を自覚している。

【考え方】

- 単元ごとに、学習内容や学習方法、課題解決の過程等、学んだことを自覚できるように促しましょう。
- 自己評価は文章で記述させるなど、生徒が達成感や学習内容の有用感を得られるように工夫しましょう。